

株主の皆さまへ

2018年度（第66期）上半期【2018年4月1日～2018年9月30日】



Index

社長メッセージ	1
地域別セグメントの業績（上半期）	3
連結財務諸表	4
事業状況のご説明	5
FOCUS	7
トピックス	9
製品紹介	10
会社概要／株式の状況	裏表紙



ご挨拶

株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社グループの事業概況やその取り組み、成果などについてご報告申し上げます。

2018年11月

代表取締役社長 山口 次郎

当上半期の連結業績について

上期の業績は、燃料タンクおよび二輪部品の受注増などにより、売上収益は増加しましたが、利益については大幅な減益となりました。その要因としては、主に、中国および米州における受注の減少、メキシコで発生した水害による取引先の生産休止の影響、そして、ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド(米国)(=USY)において、生産安定化対応費用および取引先への確実な製品供給のための他拠点からの製品補完費用を計上したことに加え、一部の樹脂製燃料タンクの不具合によるリコール関連費用を計上したことなどによります。

通期の業績予想については、上期の業績および下期においてもUSYの生産安定化に向けた取り組み費用を見込んだことなどから、5月8日に発表した通期予想を大幅に下方修正しました。

これらの業績予想を踏まえ、中間配当は1株につき8円とし、期末配当予想につきましても8円、年間で

16円(計画比16円・前年比16円減配)と修正させていただきました。株主の皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

生産の盤石化と品質の強化

USYの生産対応につきましては、いましばらくリソースを必要とするものの、しっかりと安定化を実現し生産基盤を盤石化してまいります。全社一丸となつて、今期中に安定生産の基盤づくりの完了を推進してまいります。

また、一部の樹脂製燃料タンクのリコールにつきましては、お客様に大変なご迷惑をおかけしたことを真摯に反省し、品質強化に対する再点検を行ってまいります。

当社はグローバルに展開するものづくり企業です。その基盤であるQCD*の取り組みをいま一度強化しなければなりません。グローバルヤチヨの各生産拠

点における生産状況と品質の取り組みを検証しなおし、再発防止に取り組んでまいります。

※ QCD…Quality, Cost, Delivery=品質、コスト、納期

事業の方向性について

USYの安定生産化施策を着実に推進する一方で、中期方針で定めた施策については、一つひとつ確実に進めてまいります。主力製品である樹脂製燃料タンクとサンルーフについては、技術進化による競争力強化を進め、積極的に販路拡大を目指してまいります。

また、樹脂塗装領域では、今期5月より、ダイハツ工業さまの量販車種向けフロントバンパーの生産を鈴鹿工場を開始しました。当社の樹脂塗装技術でお客様に喜んでいただけるよう、万全の体制で製品をお届けしております。また、サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド(タイ)では二輪車用のボディーカバーなどの樹脂塗装部品を手がけており、今後これらの受注を拡大させてまいります。

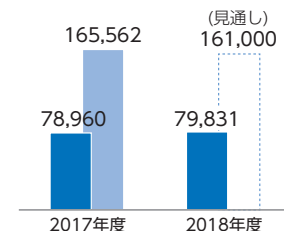
当社は塗装業が事業の出发点です。創業の原点である塗装を含めた、この『樹脂の成形と塗装』を事業の柱として大きく育ててまいります。

今後、主力製品の競争力強化と販路拡大、樹脂塗装領域の事業拡大、運転補助装置など当社ならではの製品の進化を着実に進めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

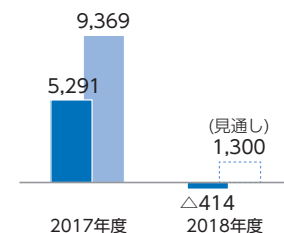
連結業績ハイライト

■上半期 ■通期
(単位:百万円)

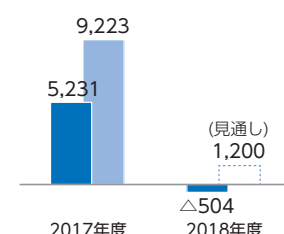
売上収益
79,831
百万円
(前年同期比1.1%増)



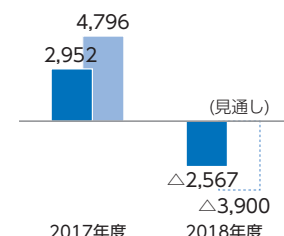
営業利益
△414
百万円



税引前利益
△504
百万円

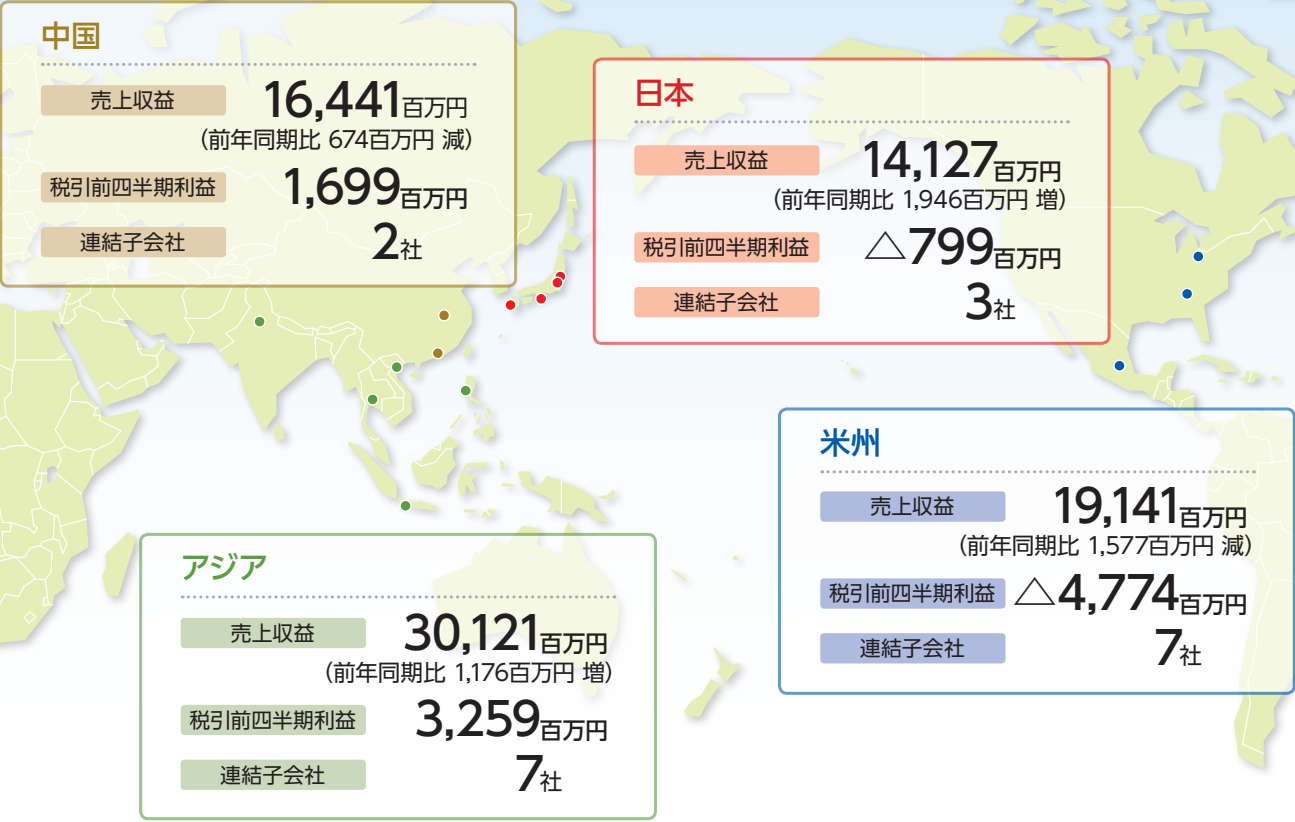


親会社の
所有者に帰属する
当期利益
△2,567
百万円



当社は、国際会計基準に基づいて連結財務諸表を作成しています。2018年4月2日に完成事業を譲渡したことに伴い同事業を非継続事業としており、売上収益・営業利益・税引前利益については、2017年度・2018年度ともに同事業の数値を含めていません。

地域別セグメントの業績（上半期）

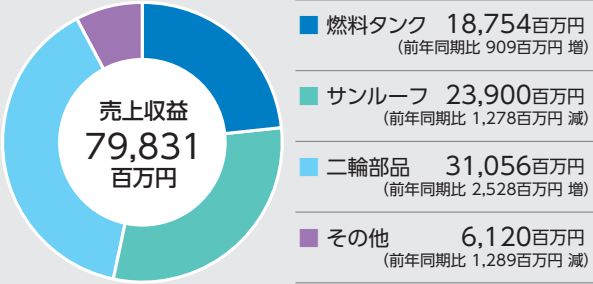


ポイント

- 日本** 自動車部品および二輪部品の増収
受注の増加や原価改善効果などにより利益改善
- 米州** メキシコの水害影響により減収
メキシコでの受注減少に加え、USY*において生産安定化費用、製品補完費用、リコール関連費用を計上したことなどにより減益
- 中国** 自動車部品の減収
受注の減少や機種構成差および新機種立ち上がりに伴う開発費負担の増加などにより減益
- アジア** 自動車部品および二輪部品の増収
機種構成変化などにより減益

※USY…ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)

(ご参考) 製品別の売上収益

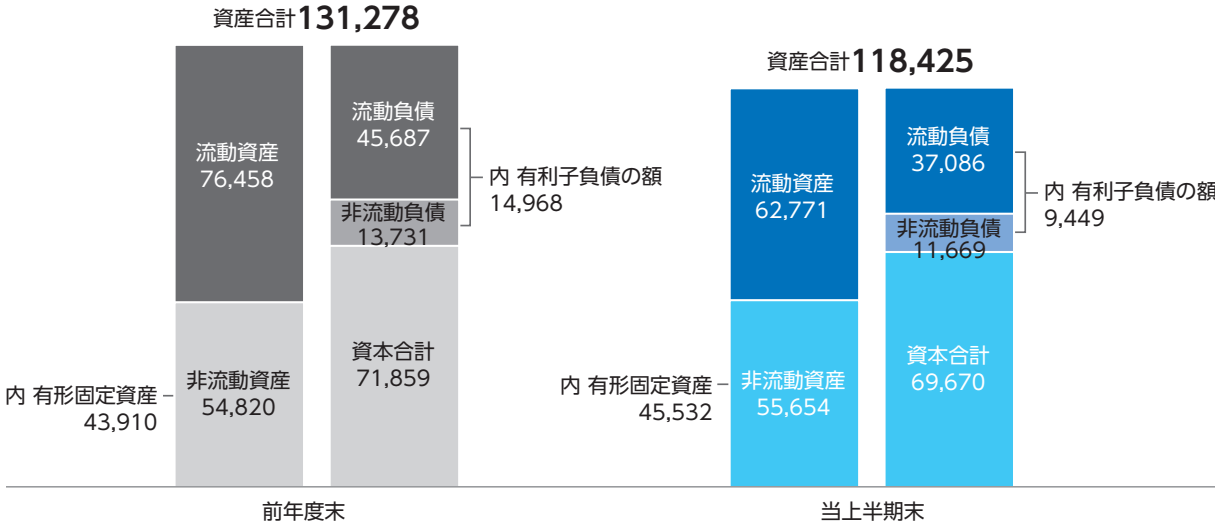


※その他内訳：補修パーツ、板金部品、樹脂塗装など

連結財務諸表

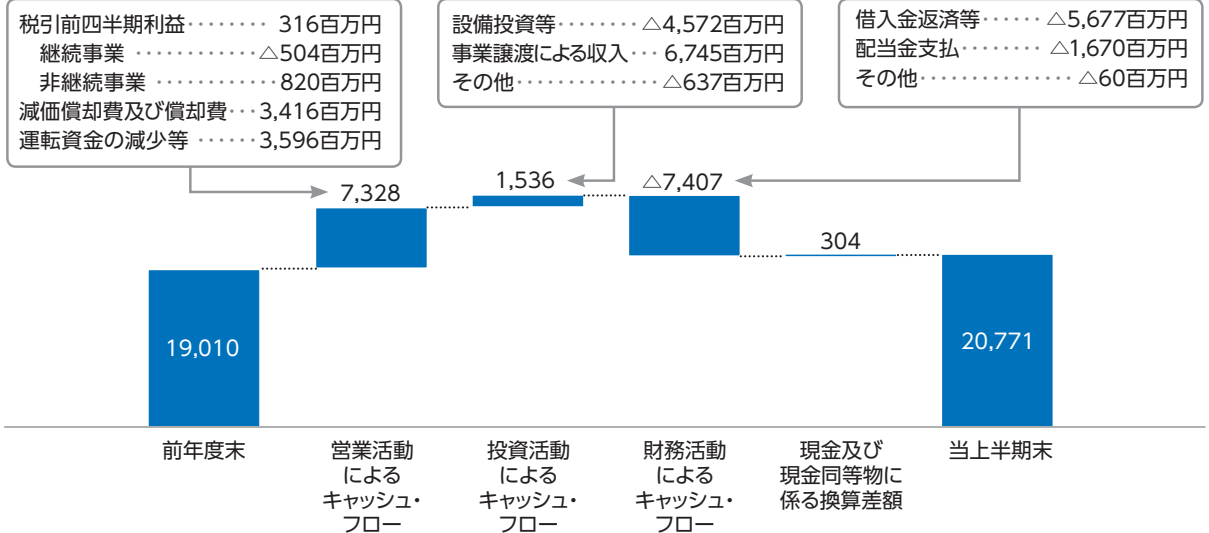
連結財政状態計算書

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



真に強いグローバルオペレーションの構築へ

USYの状況について

樹脂製燃料タンク（PFT）の生産拠点ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）（＝USY）における生産不具合については、株主の皆様にご迷惑とご心配をおかけしております。USYの状況についてお伝えいたします。

USYのPFT成形機は、当社がPFTで海外進出した際に初めて導入した設備です。稼働開始から十数年が経ち、これまで更新の検討も行ってきましたが、継続的なメンテナンスを実施することにより安定生産できる見込みでした。しかしその後、補修や部品交換を必要とする個所が多く見つかり、またこのとき、環境規制に対応した部品内蔵成形という新たな技術の投入と、新機種の高立ち上がりや生産増の負荷が重なり、安定稼働の難しい状況が散発するようになりました。生産量を確保するために休日操業を行い、現地従業員に多大な負担をかけてしまうことになりました。これらのことからUSY全体の生産体質が低下し、今期下期以降も引き続き対応が必要となりました。

元来USYは、長く安定生産を続けてきた優良モデル拠点でした。しかしその反面、変化に対して弱くなりつつあることに気が付けなくなってしまったものと認識しています。日常管理の重要性に対する意識が低下し、品質管理や設備管理への対応力が弱まってしまい、これが設備の状況を正しく評価できなかった一因にもなったと考えています。

また、海外拠点に対しては、通常、日本から拠点長や駐在技術者を送り出しており、その過程でもものづくりに必要な日常管理を現地に定着させる必要がありますが、その目的や手法を根付かせるための現地従業員の育成にも課題があったと認識しています。

今回、生産安定化に向けて日本を中心とした支援

を行い、USYの生産現場を支えるとともに、日本、タイ、中国の拠点でPFTの補完生産を行ってUSYへ送ることで、お客様への万全な供給体制を構築しています。

良い製品を安定的に供給することは、ものづくりの基本です。全社一丸となってUSYの安定生産を回復するとともに、生産体質のさらなる強化に取り組んでまいります。



藤本 朋宏

代表取締役専務取締役
生産本部長

確実な日常管理を現地に根付かせる

海外拠点のあるべき姿は、現地のスキルで安定生産を確保することです。そのためには現地従業員に「ものづくりとは」「燃料タンクとは」「生産設備とは」といった基本をあらためてしっかり理解してもらう必要があります。これはすぐに完了できることではないため、当面は日本からの支援を継続し、2020年稼働予定の新成形機も確実に導入していきますが、こういった設備導入についても現地従業員に参画してもらう考えです。日本の設備導入部隊がすべてを整えるのではなく、拠点長を筆頭に生産拠点として管理ができるよう現地従業員を育成しながら進め、設備保全のスキルも含めて日常管理が確実にできるようにします。生産設備だけでなく、生産管理全体のマネジメントについても現地で定着するようにしてい

きます。

今後、新しい製品や技術の高立ち上がりが日本から海外拠点に移行していくことが見込まれるなか、こういった現地従業員の育成はより一層重要になると認識しております。

また、USYをはじめ、グローバルヤチヨが一つの目標に向かっていくには、日本がリードしていかなければなりません。その日本のものづくりの現場を活性化させながら、全力で安定生産に向けて取り組んでまいります。

現場力のさらなる強化に向けて

今回のUSYにおける生産不具合においては、現地主体での新機種の高立ち上げに課題があったことも要因の一つとしてありますが、グローバルサプライヤーとして、お客様のニーズに応じて、世界中のどの拠点であっても新技術や新製品を立ち上げられるようにしなければなりません。その中で日本はマザー機能として、グローバルヤチヨの柱となる考え方や方針を発信することが大切だと考えています。



山口 次郎

代表取締役社長

また、現地主体の新技術・新製品の高立ち上げを日本がバックアップするには、現地と日本とがそれぞれどういった役割を担うかが重要です。例えば、米州、中国、アジアの地域ごとに生産統括を置きました。これから、より地域特性が分かり、必要なリソースも把握できるようになります。こういった役割をもった



PFT成形設備のメンテナンスに取り組むUSY現地従業員

統括者が、生産拠点のSQCD*や事業運営などを評価して、能力拡大や体質改革などを提案する。このような『考え方』を発信するのがマザー機能であり、それは企画～開発～生産まで一気通貫でものづくりをリードする日本でなければなりません。

当社は、中期方針の重点施策に『グローバルオペレーションの確立と実行』を掲げています。現地と日本との役割の明確化、日本のマザー機能の強化など、この施策をしっかりやりきることが必要です。また、そういったグローバルオペレーションが確実に機能するようになれば、PFTやサンルーフといったこれまでの主力事業だけでなく、今後の事業の柱として拡大を目指す樹脂塗装事業などにも活かすことができます。

当社の強みは“ものづくり”であり、活力の源は昔も今も、これからも生産現場です。これまで培った技術の伝承までも含めたグローバルにおける従業員の育成、そして、グローバルオペレーションの確立と実行を、確実に推進してまいります。当社が直面しているこの厳しい状況を、ものづくり企業としてさらに進化していくための試練であると捉えて、USYの生産体質を早期に挽回し、事業改善に向け全力で取り組んでまいります。

※ SQCD…Safety, Quality, Cost, Delivery=安全、品質、コスト、納期

樹脂塗装の事業拡大に向けて

鈴鹿工場でダイハツ量販車種向けの樹脂塗装部品を生産



当社は塗装業から始まり、板金や樹脂、完成車組立など、さまざまな領域の技術を磨き、発展してきました。

現在、主力製品と位置づけるPFT※¹およびサンルーフの技術進化と販路拡大に力を入れています。これに加えて今後、『樹脂の成形および塗装』をもう一つの事業の柱として、拡大していくことを目指しています。

※1 PFT…Plastic Fuel Tank＝樹脂製燃料タンク

鈴鹿工場で新規受注獲得

当社はこのたび、樹脂塗装の領域で販路の拡大を実現しました。現在、鈴鹿工場で『ダイハツ トールカスタム』向けのフロントバンパーを量産しています。

当工場では、PFTおよびサンルーフといった主力製品を生産しておらず、樹脂の成形および塗装が主な事業です。その工場と営業とが一体となって、ダイハツ工業のQCD※²のご要望にお応えできる提案を行い、受注を獲得しました。当工場がHonda以外の自動車メーカーからティア1※³として樹脂塗装部品を受注するのは、今回が初めてです。

※2 QCD…Quality, Cost, Delivery＝品質、コスト、納期

※3 ティア1…自動車メーカーから直接の受注であること。一次部品メーカー

製造技術の進化

ダイハツ工業はトヨタグループの企業であり、独自の製品条件や生産方式を当社に取り込む必要がありました。鈴鹿工場がこの製品をスムーズに量産開始するにあたっては、さまざまな苦労や工夫を重ねました。『短期間における全10色の色合わせ』、『外観品質基準の生産ライン反映』、そしてトヨタ独自の生産方式『“eかんぱんシステム”の構築』などを、製造、技術、物流、設備、ICTといった、当工場の全員が一つのチームとなって成し遂げました。

今回、実現した「新たな生産方式を限られた期間で導入」することによって、新たな知識とスキルを習得し、今まで経験することのなかった生産システムを当社内で立ち上げることができました。これは、今後のさらなる販路の拡大に向けて、当工場だけでなく当社として大きな意義があります。各自動車メー

カーにはそれぞれ特徴的な生産方式があり、その生産方式へのフレキシブルな適応力は、部品サプライヤーとして大きな競争力となります。

当工場では、このような量産樹脂部品のほか、電着塗装や補修パーツなども手がけています。今後も取引先とコミュニケーションを密に取って速やかに生産ラインへ反映し、お客様のニーズにお応えしていきます。



これからの基礎固め

今回の受注により、鈴鹿工場の生産量は大きく増加しました。また、海外の生産工場では、サイアムヤチヨカンパニーリミテッド(タイ)(=SYC)がHonda二輪車向けのボディーカバーなどの樹脂部品を手がけており、今後の拡大が見込まれます。

これらに伴って、リソースにおいても技術力においても、生産現場における製造技術の進化の土台作りができます。現在、研究開発の一つとして、クルマのボディー外板部品を樹脂化する技術開発を進めて



二輪車向け樹脂塗装部品の生産に励むSYC

おり、製品設計を伴う樹脂塗装部品の業容拡大を目指しています。

1953年創業からほどなく設立し伝統を受け継いできた鈴鹿工場、海外における樹脂塗装の主力工場SYC、そしてものづくりのグローバルマザーである柏原工場を中心に、若手従業員も含めて樹脂塗装における技術の伝承を着実に行っていきます。

新たな事業の柱に向けて攻めの樹脂塗装へ

当社は、PFTのバッフル(波消し板)やロックナットといった樹脂製の子部品も内製しており、さらに競争力を高めていきます。また、加速するクルマの電動化において車体の軽量化は欠かせないものであり、樹脂塗装技術の活躍するステージはますます広がると予想されます。

今後は、製品条件やコストにおいて樹脂材料を優位に扱えるよう、基礎研究にも力を入れる必要があります。当社はこれらの技術をさらに磨き、樹脂塗装事業の成長を目指していきます。

平成30年7月豪雨の復興支援活動

『平成30年7月豪雨』において被災された皆さまへお見舞い申し上げます。

当社は、被害が大きいにも関わらず報道が少なかった広島県呉市音戸町および安浦町へYVAPによる支援を決定し、9～10月の2カ月間で自ら手を挙げたのべ48人（のべ143日活動）の従業員が、復興をお手伝いさせていただきました。



主に土砂やがれきの撤去など、被災された方々のニーズに応じて活動

被災された方や現地ボランティアセンターの方からは、「助けてくれてありがとう。これでやっと前に進めます」、「企業としてボランティアを推奨し、支援する理念は素晴らしい」といった感謝やお褒めの言葉をいただき、参加従業員はそれぞれの想いを遂げることができました。

これからも当社は、このような社会活動も含めて、世の中の喜びにつながる企業活動を目指していきます。

YVAPとは？

Yachiyo Volunteer Assist Program. 東日本大震災への支援を機に、社会のお役に立つことと従業員の成長を目的としてスタートした。従業員が個人として持つ社会貢献への想いを最大限尊重し、その想いに応えられるようバックアップする制度。地域の福祉関連活動への支援や災害復興支援などを希望する従業員に対し、交通手段や活動物資などのバックアップを行う。



女性新入社員も参加し、被災地復興と自身の想いを遂げるため奮闘した

土田和歌子選手、初の世界選手権で2位

当社所属の土田和歌子選手は9月15日、年間チャンピオンを決定する『ITU世界パラトライアスロンシリーズグランドファイナル（2018/ゴールドコースト）』に出場しました。2018年1月18日に競技転向を発表して初めて挑んだ世界選手権で、堂々の世界2位を勝ち取りました。

退路を断った先に立ちはだかるのは、“スイム”の壁でした。昨日の動きが今日は再現できなくなる難しさや水温の低さからレースを断念する悔しさを経験。しかし、それらを乗り越え今なお成長する土田選手の姿は、世界一または世界初の技術および製品を目指す私たちに、挑戦する勇気を与えてくれます。

すでに土田選手の参戦するクラスが東京2020の実施種目として決定しており、日本代表はもちろん世界の頂点を目指します。引き続き、皆さまからの応援をよろしくお願いします。

パラトライアスロンとは？

スイム（0.75km）⇒バイク（20.0km）⇒ラン（5.0km）の3つで競い、“ラン”では陸上競技用車いすを使用して走る。トランジションと呼ばれる“乗り換え”も競技のトータル時間に含まれる。土田選手は車いすを使用する選手枠のPTWCクラスに出場。



“ラン”のパートを当社製レーサー極<KIWAMI>で駆け、2位でフィニッシュ



東京2020に向けて、当社陸上競技部の選手同士でお互いを高め合う“ヤチヨアスリート対談”を開催

主な製品



製品特集

ヤチヨは燃料タンクとサンルーフのほか、樹脂製品も手がけています。
大量生産から少量多品種、素材からさまざまな塗装まで、幅広くお応えできるのがヤチヨの強みです。
（代表例を紹介します）

Honda車向け量産



Honda以外のメーカー



その他の樹脂製品



会社概要

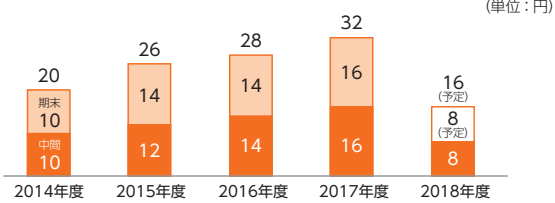
社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 881名 連結 7,092名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 04-2955-1211(代表)

役員

代表取締役社長	山口 次郎	監査役	山室 恵
代表取締役専務取締役	藤本 朋宏	監査役	村松 昌信
常務取締役	北村 哲也	常務執行役員	木原 浩之
常務取締役	安田 哲	常務執行役員	栗原 貞幸
取締役	松原 美樹	常務執行役員	長谷川吉保
取締役	横瀬 勉	常務執行役員	堀田 貢市
監査役(常勤)	松川 実	常務執行役員	三島 清憲
監査役	富永 和也		

(注.1) 横瀬勉氏は、社外取締役です。
(注.2) 富永和也氏、山室恵氏および村松昌信氏は、社外監査役です。

配当金の推移



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。

成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

株式の状況

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	2,619名

大株主の状況

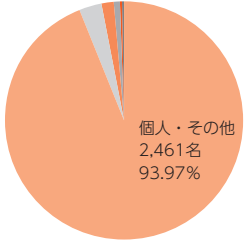
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.40
大竹栄一	1,312	5.46
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任 代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	896	3.73
株式会社三井住友銀行	457	1.90
埼玉車体株式会社	438	1.82
石井良明	391	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	381	1.59
株式会社三菱UFJ銀行	350	1.46
八千代工業従業員持株会	338	1.41
大竹謙司	232	0.97

(注.1) 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
(注.2) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は全て信託業務に係る株式です。

所有者別株式の分布状況

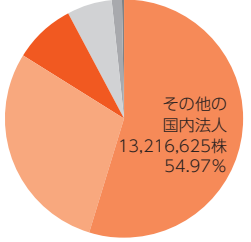
株主数および比率 (合計2,619名)

外国人	81名	3.09%
その他の国内法人	42名	1.60%
証券会社	23名	0.88%
金融機関	11名	0.42%
自己名義	1名	0.04%



株式数および比率 (合計24,042,700株)

個人・その他	6,994,851株	29.09%
外国人	1,992,312株	8.29%
金融機関	1,505,700株	6.26%
証券会社	303,932株	1.27%
自己名義	29,280株	0.12%



八千代工業株式会社

埼玉県狭山市柏原393番地
電話04 - 2955 - 1211 (代表)
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

